

3 評価項目の設定

今後、資料2で設定した複数のルート案についての総合的な評価を行い、ルートの決定を行う。
総合評価にあたっては、可能な限り定量的な評価を行うこととし、評価項目を次のように設定する。

(1) 大項目

大項目として、次の2つを設定する。

- 路線新設による整備効果を評価する項目として「必要性（整備効果）」
- 路線新設の実現可能性を評価する項目として「実現性」

(2) 中項目

大項目の下に中項目を次のとおり設定する。

① 「必要性（整備効果）」に関する中項目

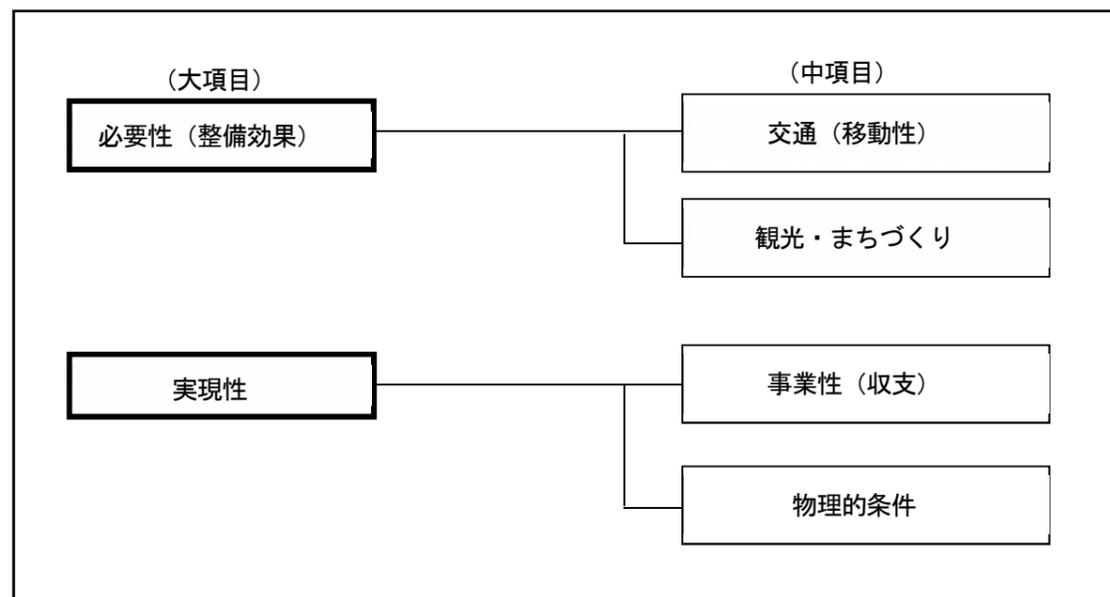
公共交通としての評価や観光やまちづくりの視点からの評価が考えられることから、次の2つを中項目として設定する。

- 公共交通としての利便性向上を評価する項目として「交通（移動性）」
- 観光やまちづくりに対する効果を評価する項目として「観光・まちづくり」

② 「実現性」に関する中項目

費用的な面と物理的な制約の面での評価が考えられることから、次の2つを中項目として設定する。

- 費用的な側面を評価する項目として「事業性（収支）」
- 物理的な制約を評価する項目として「物理的条件」



(3) 小項目

中項目の下に小項目を次の表のとおり設定する。

【評価項目】

大項目	中項目	小項目	設定の考え方
必要性（整備効果）	交通（移動性）	●速達性	• 観光路線は、旅客船ターミナルと鹿児島中央駅や天文館等を結ぶ公共交通となると共に、日常的に利用する市民等の利便性向上も期待されることから項目として設定
		●路面電車ネットワークの充実	• 路線整備により、路面電車の利用圏が広がり、公共交通の利便性向上が期待されること、また、既存路線と重複する区間もあり、既存路線のサービス向上も期待されることから項目として設定
		●海上交通との結節	• 桜島フェリーターミナルなどの海上交通拠点との結節強化により、市内の公共交通ネットワークの強化につながることから項目として設定
	観光・まちづくり	●観光施設等へのアクセス性	• 観光施設であるかごしま水族館等へのアクセスの向上は、観光客の利便性向上につながることから項目として設定
		●回遊性	• 天文館地区等との回遊性の向上は、中心市街地の活性化につながることから項目として設定
		●魅力ある景観	• 路面電車が走る景色や車窓から眺める景色は、まちの魅力向上となることから項目として設定
実現性	事業性（収支）	●需要見込み	• 需要見込みについては、事業採算性に影響があることから項目として設定
		●事業費	• 費用的な側面は、事業実施に影響があることから項目として設定
	物理的条件	●自動車交通への影響	• 自動車交通への影響は、事業実施に影響があることから項目として設定
		●地下埋設物等への支障	• 地下埋設物の移設などは、事業実施に影響があることから項目として設定